



受付第 0 3 A 0 4 1 1 号
受付日：平成15年 5月12日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 タナカ 住宅資材事業部

代表取締役 田 中 司 郎 様

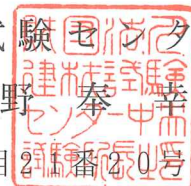
茨城県新治郡新治村大畑 7 0 2 - 1

試験名称 枠組壁工法用接合金物の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成15年 6月30日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝 野 幸
埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物の性能試験						
依頼者	株式会社タナカ住宅資材事業部						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<div>1. 接合金物 商 品 名：ビス止めホールダウンU20kN用 用 途：柱脚に使用する接合金物（アンカー型） 形状・寸法：幅40mm，長さ195mm，厚さ6mmの鋼板添え板にU形に折り曲げた厚さ4.5mmの鋼板を溶接したもの（図－3参照） 材 質：SPHC（JIS G 3131） 表面処理：ダクロタイズド処理</div> <div>2. 接合具 木ねじ：TB－65，7-φ5.5×65mm（ねじ部の長さ53mm），谷の径；3.2mm ねじ山のピッチ；3.2mm，ねじ先の形状；とがり先，材質；SWCH 22K（JIS G 3539） 表面処理；ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400（JIS G 3101） 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C（JIS H 8610及びJIS H 8625） 丸ワッシャー：外径32mm，内径17mm，厚さ2.8mm，材質；SPHC，表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C</div> <div>3. 使用枠組材 たて枠：JAS規格の枠組壁工法構造用製材，樹種；S-P-F，区分；甲種，等級；2級，寸法形式；204D 含水率；11.5～14.0%，密度；0.43～0.54g/cm³</div> <div>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参 照：図－1～図－4（試験体の形状・寸法）</div>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表－1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力	終局変位	試験剛性
	記号	番号	(Py)kN	(δy)mm	(Pu)kN	(δu)mm	(K)kN/cm
	24BHU20	0	21.7	4.9	37.8	23.5	44.3
		1	24.8	6.2	37.2	28.1	40.0
		2	25.0	5.3	39.9	27.5	47.2
		3	25.8	5.6	41.1	27.7	46.1
		4	23.1	5.9	36.7	29.7	39.2
		5	23.9	7.6	36.3	29.6	31.4
		6	21.5	6.8	35.1	24.0	31.6
	平均		24.0	6.2	37.7	27.8	39.2
標準偏差s		1.55	0.85	2.30	2.07	6.79	
5%下限値		20.4	—	32.3	—	—	
基準値		基準許容応力 13.6		基準終局耐力 32.3		基準剛性 39.2	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参 照：表－2（2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況），図－5（荷重－変位包絡線の比較） 図－6（荷重－変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル），写真－1～写真－6（破壊状況）							
試験期間	平成15年 5月12日 ～ 23日						
担当者	構造グループ 試験監督者 橋 本 敏 男 試験責任者 高 橋 大 祐 試験実施者 室 星 啓 和						
試験場所	中 央 試 験 所						